

うっきーちゃんの テレビふしぎたんけん

お茶の水女子大学受託研究

監修

無藤 隆（お茶の水女子大学生活科学部）

駒谷 真美（お茶の水女子大学大学院人間文化研究科）

企画・開発

下村 健一（東京大学社会情報研究所）

奥泉 香（杉野服飾大学）

田野 稔（株式会社グループ現代）

西条美智枝（株式会社グループ現代）

中村 純子（川崎市立麻生中学校）

中村 和弘（東京学芸大学教育学部附属世田谷小学校）

石田 一元（甲府市立大國小学校）

大間 孝子（品川区立八潮小学校）



教材の対象 小学校低学年

教材の目的 「テレビの中の空想と現実の理解」を目的にしている。

本教材の到達目標は、以下の三点である。

- (1) 小学校低学年の子どもたちがテレビ番組は作られたものであることに気づくこと。
- (2) 「テレビの中の空想と現実」について興味・関心を持つこと。
- (3) 「テレビの中の空想と現実」について具体的に自分の生活と関連付けて考える。

子どもたちは、本教材を活用した授業を通して、「テレビの中の空想と現実」について、知ること考えることの難しさとおもしろさを体験する。例えば、アニメーションでは、動きや色や声によってキャラクターの印象が異なることを知り、空想の世界が多様な表現で作られていることに気づく。アクションシーンでは、その演出技法を知ることによって、現実の暴力とアクションのフィクションの差に気づく。ドラマでは、自分とは異なる役を演じることを通して、本物らしく見せるリアリスティックな世界と現実の世界の違いに気づく。それは、メディアを主体的に読み解く力を育成するきっかけとなり、テレビに対して高次の楽しみ方や接し方（テレビ映像の法則性を知って更に深い多様な観賞ができるようになる）に繋がる。

教材の構成と内容

1. ビデオ教材—授業で使用

ビデオ（30分）は、アニメーション・アクションシーン・ドラマの3つのパート（各10分）で構成され、アニメからドラマへ、空想からより現実に近い世界へメディア体験を重ねていく。各パートは以下の流れになっている。



- (1) 番組（サンプル）の一場面—テレビのふしぎを考えるきっかけを作る。
- (2) はてなタイム—テレビのふしぎについて考え、制作現場からふしぎの謎解きをする。
- (3) やってみよう—実際にふしぎを試してみる。
- (4) ふしぎわかったかな？—まとめとして学習を振り返る。
- (5) みんなも見つけてみよう！—授業の実践例を紹介する。

ビデオには問いかけ場面（はてなタイム・やってみようタイム）があるので、教師と子どもの、子ども同士の「対話」の促進につながる。例えば、アニメでは、各自で連続する2枚の絵を描き、グループやクラスで2枚の絵の動きを工夫して見せ合う。楽しみながら「アニメの動きが作られたものであること」を認識し、「テレビの中の空想と現実」について思考を深めるのを助ける。



2. ガイドブック—授業準備で使用（ビデオ準拠）

ガイドブックでは、「うっきーちゃんのテレビふしぎたんけん」を単元、アニメーション（2時間）・アクションシーン（1時間）・ドラマ（1時間）の3パートを小単元と設定した。

- (1) 指導案—小単元毎に、現職小学校教師が、各自の実践に基づいて作成した。学習活動（教師の働きかけ・児童の反応）、支援上の留意点と評価（関心・意欲・態度、思考・判断、技能・表現、知識・理解）、活動に沿ったビデオ映像の写真を掲載している。
- (2) ワークシート・ふりかえりシート・発展活動のヒント—ビデオ教材と指導案に基づき、授業の補助と発展を目的に記載している。
- (3) 制作者・市民メディアトレーナー・国語科教師の寄稿—メディア・リテラシー教育の様々な視点を紹介している。

これにより、教師が授業前に具体的な授業の流れがイメージでき、担当する学年やクラスに合った授業づくりができる。メディア・リテラシー教育を初めて教える教師が、安心して授業準備ができる教材となっている。

問合せ先

お茶の水女子大学生活科学部 無藤隆研究室 駒谷真美

〒112-8610 東京都文京区大塚2-1-1 Phone: 03-5978-5782, Fax: 03-5978-5783

E-mail: komaya@aqu.bekkoame.ne.jp